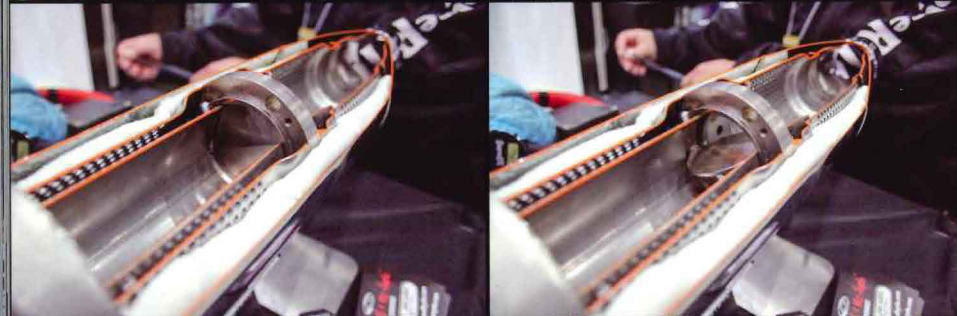
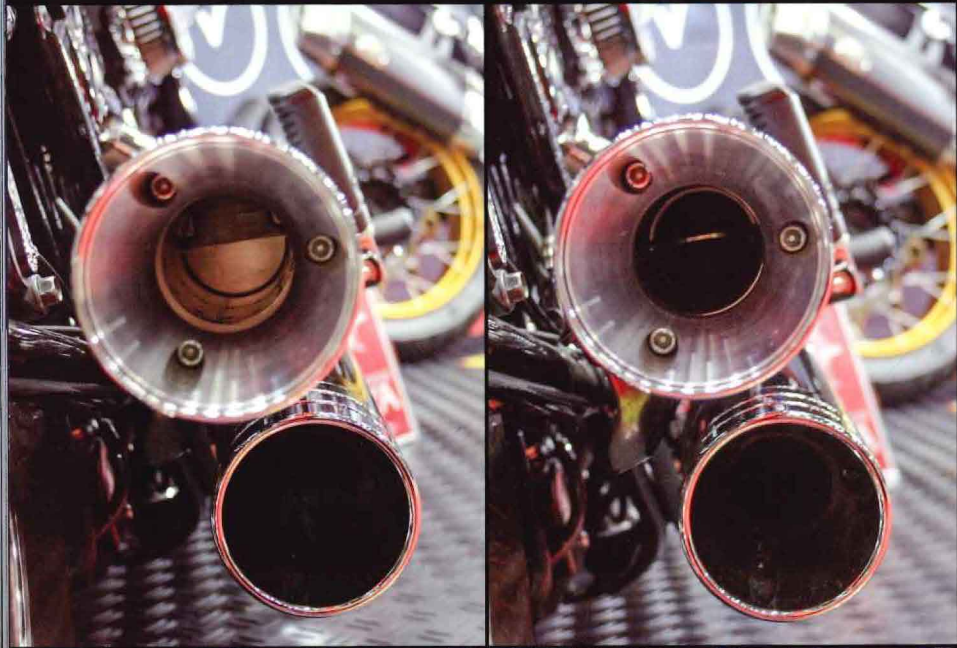
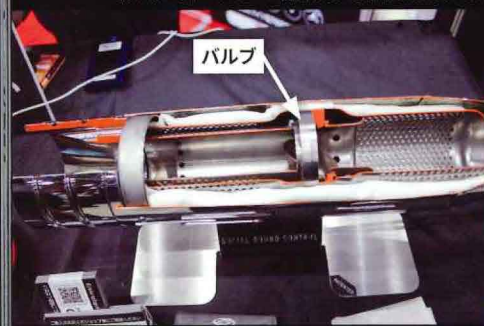


文・写真=ジェームス関島
 text & photograph : James Sekijima



上の写真の右が全開状態で左が全閉状態。その中間状態もあり、操作はハンドルに装着されたスイッチひとつ(右下写真)で。左下のカットモデルを見ればわかるが、開閉バルブよりエンジン側にもバンキングメッシュが施してあり、この構造こそがジキル&ハイドマフラーの秘密らしい。価格は形状や対応車種によって変わるため、問い合わせください、とのこと。



東京モーターサイクルショーのブースと岡本さん。



トライジャが合法マフラー「ジキル&ハイド」を推す理由。

先の東京モーターサイクルショーにて、トライジャのブースにお邪魔した。ブース名は「TRIJA」ではなく「ジキル&ハイドマフラー」。同店が日本総代理店を務める「車検対応、JMC A政府認証、音重可変式マフラー」である。トライジャと言えは数々の下派手なカスタムで我々を魅了してきた大阪のカスタムショップだが、そのトライジャがマフラー、しかも「合法の」マフラーにそれほどまでに注力する理由を知りたかった。

「バイクが大好きだからです」岡本さんはカスタム屋という立場から、長い目でこのカスタム業界というものを見つめてきた。それゆえ、パンチ力の大切さは十分理解した上で、大好きな乗り物に未長く乗り続けるための答えとしてこのマフラーを推しているのだという。年々厳しくなる環境問題に対処すべく、ハーレーというバイクそのものがさまざまな変更や改良を余儀なくされている昨今、岡本さんの考えでは、それはハーレーというメーカーだけに任せておけば済む

話ではなく、たまたまカスタム屋として、同様に考える必要があるのではないかと。同時に、自身の年齢も考え、後身に道を譲る際、譲られた者たちが誰に後指をきされることなく胸を張って歩み続けられるようにするための、準備の一環なのだと。マフラー紹介で感情論ばかりを述べるのもどうかと思うが、我々としてもハーレーを愛し続けていくために、どうせなら同じような気持ちを持ったハーレーをつけたいと思うのは

おかしいことだろうか。もちろんマフラーとしての性能も間違いのない。内部に設けられたバルブで全開、中間、全開の3段階の音重調整が可能で、全開の際もまた閉じるだけではなくきちんと排気効率を考えた手の込んだ構造。肝心の音も全開時で車検対応というレベルのため、うるさいかな？ と悩む必要もなく、ノーマル然とした音(全開時)と心地のいい歯切れ良さ(全開時)まで楽しむことができる。すべては乗り続けるために、心意気が熱い。

■トライジャ <http://trijya.com/>